

佐賀県の地震活動概況 (2020年8月)

令和2年9月3日
佐賀地方気象台

【8月の地震活動概況】

8月に佐賀県内で震度1以上を観測した地震はありませんでした(7月は1回)。

※2020年4月18日から、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震での震源決定数の変化(減少等)がみられます

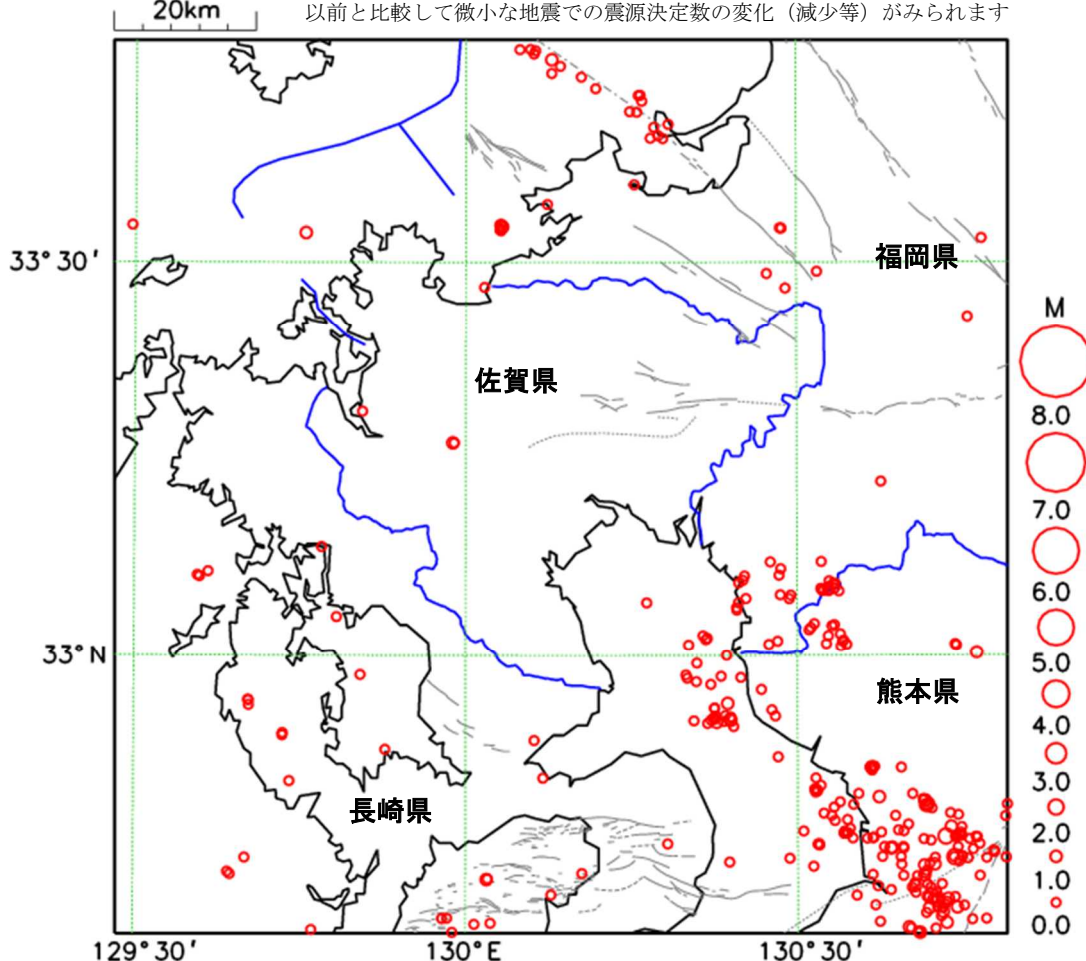


図1 震央分布図 (2020年8月1日~31日、深さ30km以浅、M≥0.0)
灰色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

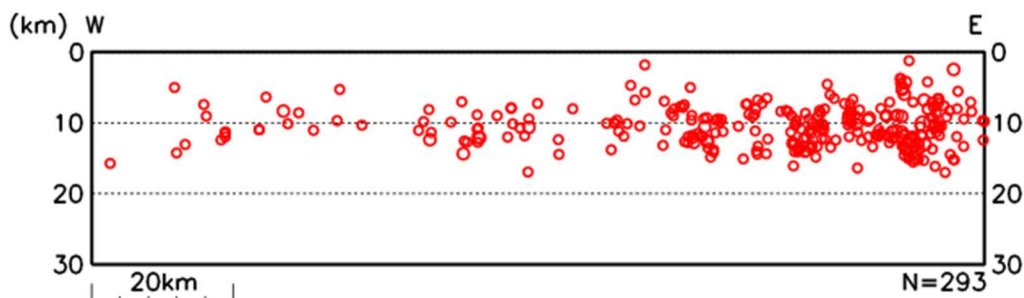


図2 断面図 (2020年8月1日~31日、深さ30km以浅)
震央分布図を南の方から見た断面図です。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

国外で発生した地震（遠地地震）における津波の情報提供について

気象庁では、津波による災害のおそれがある場合に津波警報等^{*}を発表しています。今回は遠地地震時の津波の情報提供について、概要を解説します。

^{*}津波警報等は大津波警報、津波警報、津波注意報の総称です

気象庁は、国外でマグニチュード7.0以上の地震が発生した場合や、都市部など著しい被害が発生する可能性がある地域で規模の大きな地震を観測した場合に、「遠地地震に関する情報」を発表します。この情報（第1報）は地震の発生時刻、発生場所（震源）やその規模（マグニチュード）を概ね30分以内に発表するもので、日本や国外への津波の影響についても記述して発表します。また、適宜、国外での津波の観測状況等を「遠地地震に関する情報」（続報）で発表します。さらに、国外の検潮所で観測した津波の状況や過去の事例等も考慮し日本への津波の影響を検討し、日本に津波による被害のおそれがあると判断した場合には、津波到達予想時刻の2時間程度前に津波警報等を発表します。その後、解除まで適宜、津波の観測情報を発表します。

また、気象庁では記者会見を開催し、津波警報等発表判断のタイミング等、今後の情報発表に関する見通しと、今後発表する津波警報等の具体的な内容（対象予報区、津波警報等の種類、第1波到達予想時刻）をお知らせするとともに、報道発表資料として公表します。

国外で発生した地震に伴う津波は、到達まで時間的に余裕がある場合が多いことから、早めの避難行動や防災対応が可能です。適宜提供する情報や資料を有効活用していただきますようお願いいたします。

